

燃ゆる感動 かがしま国体

第75回国民体育大会 熱い鼓動 風は南から 2020

バドミントン

競技のみどころ

- スマッシュの打球初速は全球技の中で最も速く、速いラリーの応酬は迫力があります。難易度を使い分ける様々なショットやフットワーク、そして相手との駆け引きも見どころです。パワーや機敏力に加え、持久力も勝負を左右します。ダブルスではペアのコンビネーションもポイントとなります。
- 試合では、半球状のコルクに羽根の付いたシャトルをラケットで打ち合い、1ゲーム21ポイント3ゲーム制で勝敗を決します。
- 団体では、成年男女、少年男女で実施され、1チーム3人の選手がダブルス(1戦)とシングル(2戦)に臨みます。



かがしま国体に向けた思い

- 鹿児島県でも学校の部活動やスポーツクラブなど、子どもから大人まで幅広く親しまれています。
- 鹿児島県バドミントン協会では、成年男女はもとより、「かがしま国体」開催時に高校生になる受入の育成・強化にも積極的に取り組んでいます。
- 「かがしま国体」では、選手・スタッフ一丸となり、上位入賞を目指して頑張ります。

燃ゆる感動 かがしま国体

第75回国民体育大会 熱い鼓動 風は南から 2020

弓道

競技のみどころ

- 日本古来の武術の一つである弓術を起源とします。射手は、弓を用いて自らの感覚と集中力を磨り込めることを目指し、日々の練習で技術だけでなく、物事に動じない「不動心」も養います。集中力を高め、それを維持することが重要とされます。
- 試合では、矢を射て、的に当てることが目的とされます。
- 団体では、成年男女、少年男女で3人制の団体戦が実施されます。28mの距離で直径36cmの的を狙う「近射」と、60mの距離で直径100cmの的を狙う「遠射」がそれぞれ実施されます。



かがしま国体に向けた思い

- 「かがしま国体」では、江戸時代から「日蓮宗無敵矢場」が伝承されている由緒ある射場が競技会場となります。武の伝統の残る鹿児島県は弓道も盛んで、成年男女、少年男女のいずれも全国トップレベルです。
- 鹿児島県弓道連盟では、「かがしま国体」に向け、中期的な視野に立った選手の発掘・育成や役員養成等に取り組んでいます。
- さらなる研鑽を積み、「かがしま国体」では完全優勝を目指します。

燃ゆる感動 かがしま国体

第75回国民体育大会 熱い鼓動 風は南から 2020

ライフル射撃

競技のみどころ

- 火薬を使用して発射するピストル、ライフル。空気の圧力で発射するエア・ライフル、エア・ピストル(AP)、そして光線によるビーム・ライフル(BR)、ビーム・ピストル(BP)があります。それぞれ制限時間内に決められた姿勢(立射・伏射・横射)と距離で標的を狙い、決められた弾数を打って得点を競います。
- 団体では、片手でピストルを持ち25m先の標的を射撃するセンター・ファイア・ピストル(CP)のほか、50mライフル、10mエア・ライフル、10mAP、BR及びBPに大きく区分されます。



かがしま国体に向けた思い

- わずかな体の揺れが順位に大きく影響するため、最後の1発まで集中力を維持させる必要があります。技術と精神が一体となった時、高得点につながります。
- 鹿児島県ライフル射撃協会では、選手・スタッフ一丸となって競技力向上に取り組んでおり、近年の団体では優勝選手が上位に入賞しています。また、BRでは、少年層も着実に実力を上げています。
- 「かがしま国体」では、期待の選手たちとともに上位入賞を目指します。

燃ゆる感動 かがしま国体

第75回国民体育大会 熱い鼓動 風は南から 2020

剣道

競技のみどころ

- 「五・剣・体」が一丸した一本(有効打突)を追求し、心身を鍛錬することによる人間形成を目指します。「礼に始まって礼に終わる」という礼法を重視するため、青少年の健全育成にも役立っています。
- 新道具を用いた二人対峙。試合場内で相対し、「竹刀」を用いて、面、小手、腕の各部を打ち、また、のどを突くことにより勝負を競います。
- 団体では、成年男女、少年男女で実施され、成年女子のみ3人制、それ以外は5人制の団体戦が実施されます。



かがしま国体に向けた思い

- 技術や駆け引きの妙だけでなく、剣の理法の間にある武士道の精神に触れられることも剣道の魅力です。日本の精舎で心と技を磨き上げてきた剣士たちが全国から集まり、それぞれの誇りをかけて剣(竹刀)を合わせます。
- 鹿児島県剣道連盟では、関係者一丸となって精舎を重んじ、選手の育成・強化に努めています。
- 優勝剣士が万全の状態では試合に臨めるよう、環境整備に努め、「かがしま国体」では、前線に夢と感動を届かせるよう、全種別で優勝を目指します。

燃ゆる感動 かがしま国体

第75回国民体育大会 熱い鼓動 風は南から 2020

ラグビーフットボール

競技のみどころ

- 激しいぶつかり合いで、楕円形のボールを奪い合います。特に、突進して相手からボールを奪うタックルや、素早いパス回しからの連続攻撃は見どころです。その一方で、試合の後にゴールの交換や相手を取巻く発声が見られるなど「ノースイットの精神」を賞入します。
- 試合では、前方の味方にパスできないもの、手も足も使って自由に走り、ボールを相手側のインゴールに押し込め得点を競います。
- 団体では、成年男子(7人制)、少年男子(15人制)が実施されます。



かがしま国体に向けた思い

- ラグビーワールドカップ2015での活躍やスーパーリーグへの参加、そしてワールドカップ2019の日本開催などによって、ラグビー界は大きな盛り上がりを見せています。
- 鹿児島県ラグビーフットボール協会では、対面的に選手・チームの強化を図っており、その威力のピークを「かがしま国体」に合わせるべく、引き続き関係者一丸となって取組を進めています。

実物のパネルは
A1サイズです。